

石に刻まれた松坡 鎌倉市内の碑（田辺松坡の撰文・書）

建立年代順

① 角田翁頌徳碑 玉縄小学校校庭（〒247-0071 鎌倉市玉縄 1-860）

- ・ 建碑 大正 3（1914）年 12 月
- ・ 篆額 「角田翁頌徳碑」（釋宗演）
- ・ 撰文 釋宗演
- ・ 書 松坡田辺新之助
- ・ 碑文 前田覺沙門洪嶽釋宗演篆額并撰文

翁本姓安齋名所左衛門父稱傳六天保八年正月生於相州浦賀嘉永六年出嗣鎌倉郡玉縄村角田氏蓋角田氏其父之生家也翁資性温厚持已極儉而尤竭力公共明治之初舉為同村戸長後及玉縄小學拔創立為學務委員以至今其間殆五十年或獎勵産業開發土地或投私財營繕校舍修理道路救恤貧困誘掖後進等其功績不遑枚舉只能至誠一貫忘身圖公益傾心愛郷黨此以闔村悦服德化大行如翁者可謂國民教育之忠良而地方自治之白眉宜矣官屢褒賞以旌表其功也今茲大正三年三月翁以頽齡不堪事之故辭職徐養老焉村人深懷翁德協志建碑囑文于余乃記其功績之萬一以傳于不朽云

大正三年十二月 松坡田邊新之助書

（碑陰） 大正三年十二月 鎌倉郡玉縄村

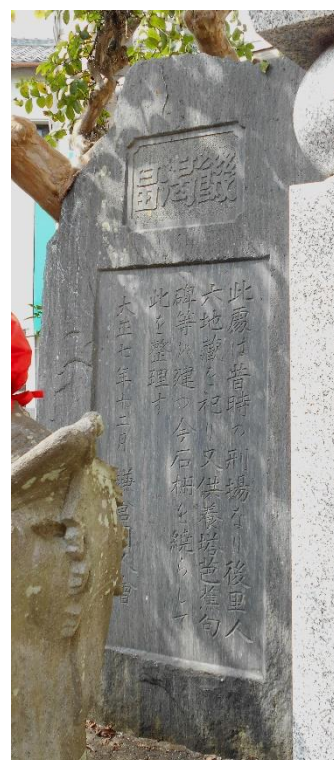
片瀬 石工秋元幸太郎刻字



② 饑渴畠碑 六地藏（〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜 1-3）

- ・ 建碑 大正 7（1918）年 12 月
- ・ 篆額 「饑渴畑」
- ・ 撰文 田辺松坡（注 1）
- ・ 書 田辺松坡（注 1）
- ・ 碑文 此處は昔時の刑場なり後里人六地藏を祀り又供養塔芭蕉句碑等を建つ今石柵を繞らして此を整理す

大正七年十二月 鎌倉同人會



③ 盛久頸座碑 盛久頸座 (〒248-0016 鎌倉市長谷 1-7-3 付近)

- ・ 建碑 大正 8 (1919) 年 6 月
- ・ 篆額 「盛久頸座 (もりひさくびのざ)」
- ・ 撰文 田辺松坡 (?) (注 1)
- ・ 書 田辺松坡 (?) (注 1)
- ・ 碑文 平家物語に文治二年六月廿八日幕府命じて平家の家人主馬八郎左衛門盛久を由比が濱に斬らしめんとせしに不思議の示現ありて之を赦したまふとあるは此地なりと云ふ
大正八年六月 鎌倉同人會



※ 注 1 : 沢寿郎『知られざる鎌倉』(鎌倉朝日 1985) によれば、饑渴畠碑の撰文と書は田辺新之助によるある (pp.121-122)。盛久頸座碑も鎌倉同人会によってほぼ同時期に建てられたものであり、その碑文の撰・書も田辺新之助によると考えてよいと思われる。

④ 日蓮水石柱 (碑) (名越踏切際 〒248-0007 鎌倉市大町 5-26-27 付近)

- ・ 建碑 昭和 2 (1927) 年 5 月
- ・ (向かって右側面)
昭和二年五月 大巧寺住職片野玄貞撰
松坡居士田邊新之助書

(正面) 中央上部に「日蓮水」

建長五年五月日蓮大士の渴を醫してより七百年來混混として晝夜を舍かず淫霖にも増すなく久旱にも滅するなく臨みて鑑すれば清きこと浄明の玉の如く掬して味へば甘きこと慈母の乳にも似たり嗚呼日蓮水是れ亦聖者の餘澤流れて羣生の心田に漑き永く本有の善苗を霑さん哉

(向かって左側面)

醫得高僧渴于今七百年餘慈
流不盡塵劫漑心田

題日蓮水 晃陽片野玄貞拜

(裏面)

靈跡日蓮水復興記念

※ 「復」の字、碑には彡+復の旁



⑤ 十一人塚碑 十一人塚 (〒248-0024 鎌倉市稲村ガ崎 1-13-22)

- ・ 建碑 昭和6 (1931) 年3月

※ 大正13 (1924) 年に鎌倉町青年団が建てたものを、碑文に史実と相違するところがあり建て替えた (碑文改刻)

費用は鎌倉同人会が負担

市内の旧蹟保存指導標中、撰文者が記されているのはこの「十一人塚碑」と「萬葉集研究遺蹟碑」(井上通泰撰文)のみ

- ・ 篆額 「十一人塚」
- ・ 撰文 田辺松坡
- ・ 書 田辺松坡
- ・ 碑文 十一人塚 田辺松坡撰并書

元弘三年五月十九日新田勢大館又次郎宗氏ヲ
將トシテ極楽寺口ヨリ鎌倉ニ攻入ラントセシ
ニ敵中本間山城左衛門手兵ヲ率キテ大館ノ本
陣ニ斫込ミ為メニ宗氏主従十一人戦死セリ即
遺骸ヲ茲ニ瘞メ十一面観音ノ像ヲ建テ以テ其
ノ英魂ヲ弔之ヲ十一人塚ト稱セシト云フ

昭和六年三月 鎌倉町青年團

(原碑)『鎌倉』第一卷第二号 (1926.5) による

傳ヘ云フ新田義貞ノ勇士十一人此ノ處ニ於テ
討死セルガ之ヲ葬リテ十一面観音堂ヲ建ツ塚
ハ其ノ蹟ナリト其ノ勇士十一人ノ果シテ何人
ナルカハ未ダ考證ヲ得ズト雖モ當年激戦ノ地
ナレバトニカク譽アルツハモノ共ガ墓ノ跡ヲ
弔セルモノナルベシ

大正十三年三月建



⑥ 間島君旌徳碑 旧鎌倉図書館脇（〒248-0012 鎌倉市御成町 19-1）

- ・ 建碑 昭和6（1931）年3月
- ・ 碑額 間島弟彦肖像レリーフ（白瀧幾之助）
- ・ 撰文 田辺松坡
- ・ 書 田辺松坡
- ・ 碑文 間島君旌徳碑

正四位勲二等 荒川巳次題

史蹟に富める鎌倉の地たる風光明媚にして気候沖和加ふるに交通至便の爲め四方より来り其の形勝を相して邸宅莊園を造営せる人少からず而して巨萬の財を此處に提供し公共文化の施設に資せられたる間島弟彦君の如きは希觀と爲す昭和三年七月君の遺言に因り愛子夫人の名を以て鎌倉国寶館基本金鎌倉町第一第二小學校鎌倉高等女學校等維持費鎌倉同人会及国寶館建設費と尋て九年五月由比濱土地家屋賣却代金の内若干を鎌倉町立圖書館建設費とに寄附せられたり君は舊名古屋藩士間島冬道翁の七男なり明治三十一年三井銀行に入り横濱大阪等の支店長を経て大正七年取締役になり十二年病みて職を辞し鎌倉に静居し昭和三年三月葛西谷の宅に逝く年五十八君資性明敏にして剛直尤も氣節を重んじ屢人の急に趨く又文藝を好む先人冬道翁は明治の初十五銀行創立者たり兼て和歌に長ず君洵に善く箕裘を継ぐ頃者圖書館建築の功竣らんとす鎌倉町は町會の決議に隨ひ碑を館側に建て君の徳を紀して石に勒し之を不朽にせんとし文を余に囑せらる乃其の梗概を叙し且君の國風一篇を録して銘に代ふある時と題して

ふむは大地いたたくは天ますらをの手して拓きて高歩むへし

昭和十一年三月

松坡 田邊新撰并書

白瀧幾之助畫

石井玉泉刻



⑦ 田辺松坡漢詩碑 妙本寺（〒248-0007 鎌倉市大町 1-15-1）

祖師堂向って右手前 植え込みの中

- ・ 建碑 昭和 13（1938）年秋

海棠を尋ね来る人が多いにもかかわらず、詩歌がないのを嘆いた日雅上人島田勝存が田
辺松に詩を依頼 竣成式は同年 10 月 20 日

- ・ 碑文 漢詩（七言絶句）

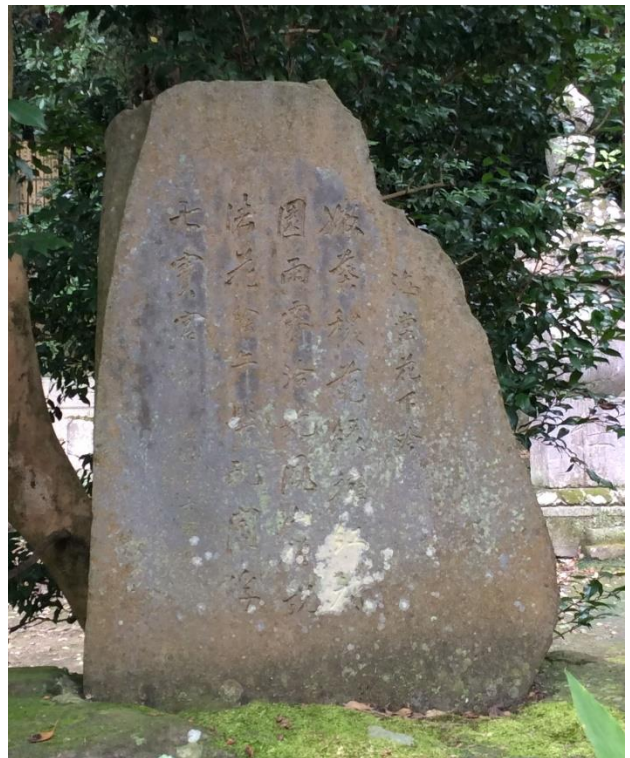
海棠花下吟
嫩葉濃葩緑擁紅
祇園雨霽冷光風
山僧說法花陰午
髣髴閻浮七寶宮

（一行七字に書き換え）

松坡居士 田辺松坡印 子慎印

杉山蓮水 刻

（碑陰） 昭和十三年十月建之





- ① 魚田翁頌德碑 (玉繩小学校)
- ② 鱧湯開碑
- ③ 盛入額座碑
- ④ 日蓮水石在 (名越路切際)
- ⑤ 十一人塚碑
- ⑥ 間島菩薩德碑 (御成小学校)
- ⑦ 松坡漢詩碑 (妙本寺祖師堂前)